

早春の会合唱団 第5回演奏会



2012. 5. 4 *fri* 13:30
東京オペラシティリサイタルホール

ご 挨拶

顧問 織田久男

先の定期演奏会からもう何年経った事でしょう。長い年月が流れ去りました…。色々な事情が重なってそうなったのですが、今回、団長はじめ熱心な団員の熱意が実ってこのように演奏会を開く事が出来たのはまことに喜ばしい限りです。皆いい年を重ねて、昔のような無理がきかなくなっている実情を承知しているだけに、その頑張りには敬意を表したいと思います。またご家族のサポートなしの活動はあり得ません。心からの感謝の気持ちを申し述べます。

指揮者に新しく安藤君が加わり、また団員にも女声に新しい人が増えましたが、現役時代からの男声欠乏症候群は相変わらずで、よくぞまあ少数精鋭で頑張っているものと、感心すると共にその負担の大きさを思わざるを得ません。男声がもっと増えますよう、もっと多くの人々が参加して下さる事をこの場を借りてお願い申し上げます。

去年は未曾有の天災に見舞われ、私ども早春の会のメンバーにも被災者が出ました。現在も復興は遅々として進んでいないようですが、その大きな要因に原発事故による放射能汚染があるでしょう。原子力利用と言うのは、放射能廃棄物の問題も含めて、一朝、事ある時はもはや人間の手に負えない未知の領域にある、という事を思い知らされました。

それにひきかえ、何百年にわたって人々の心に安らぎと慰めを与え、生きる喜びと力を与え続けてきた音楽こそは、人間の英知が創り出した最高の、世界共通の遺産と言えます。私たちはこれからも演奏を通じて、皆様方と共通の喜びを分かち合っていきたいと考えています。暫く空白の期間はありましたが、聴いて下さる人々の心に響く演奏を、という私たちのスタンスに変わりはありません。今日どんな演奏を聴かせてくれるか、私も皆様と一緒に楽しみにしております。

終わりにになりましたが、本日はご多忙中にもかかわらず、私どもの演奏会にお越し頂き有難うございました。心からお礼を申し上げます。

ご 挨拶

団長 平部正和

本日は連休の中日にもかかわらず私たちの演奏会にお運びいただき誠にありがとうございます。これまで単独演奏会は2000年の第1回から2006年の第4回まで隔年に開いて参りましたがそれから早6年が経ち、その間、新しい団員と昔の仲間も迎えながら5回目の演奏会のチャンスをうかがっておりました。そして2009年には私たちの恩師の織田久男先生のご紹介で作曲家の安藤由布樹さんを指揮者にお迎えし、続いて一時公私に多忙を極め指揮をお休みしていた玉置清明さんにも復帰していただき準備を進めてまいりました。

本日演奏曲目は宗教曲、邦人曲、ワルツなどに指揮者の自作作品や編曲作品も取り混ぜバラエティ豊かなプログラムとしました。個性も持ち味も違うお二人の指揮者のタクトによる演奏を最後までごゆっくりお楽しみください。最後に今まで毎週土曜日の貴重な時間の練習参加を暖かく見守って下さった団員のご家族と、今回の演奏会にあたり何度も練習会場に来ていただき熱くご指導を下さった織田久男先生に厚く御礼を申し上げご挨拶といたします。

(授賞のご紹介:安藤由布樹さんは国際芸術連盟(JILA)の今年の作曲賞を受賞されました。おめでとうございます。)

Program

羊は安らかに草をはみ J.S. バッハ / 作曲 安藤由布樹 / 編曲

O Roma nobilis F. リスト / 作曲 混声合唱のための「MOTETS」より

Ave verum corpus Christi F. リスト / 作曲 同上

The Foundation of the Church F. リスト / 作曲 オラトリオ「CHRISTUS」より

混声合唱組曲「幼年連禱」 新実徳英 / 作曲 吉原幸子 / 作詞

花 ・ 不眠 ・ 憧れ ・ 熱 ・ 喪失

————— *intermission* —————

混声合唱組曲「光る刻」より もぐら 木下牧子 / 作曲 木島 始 / 作詞

なぎさの地球 木下牧子 / 作曲 大岡 信 / 作詞

混声合唱組曲「21世紀のヒーロー」より 安藤由布樹 / 作曲

無傷の未来が残っているから 小野寺美穂 / 作詞

うたいたい！ 寺崎美知子 / 作詞

時はあなたを待っている 竹岡 敏雄 / 作詞

プラターに再び花が咲き シュトルツ / 作曲

ウィーンの辻馬車の歌 ピック / 作曲

月の光のグリンツィング シュトルツ / 作曲

私の母さんはウィーン生まれ グルーバー / 作曲

三つの秦野民謡 玉置清明 / 編作曲

秦野音頭

秦野東地区麦打ち唄

秦野瓜生野盆踊り唄

Program Notes

幼年連禱

初めて『幼年連禱』という題名を見たとき、自分の幼い日々への遡想が瞬時にさまざまに廻る感覚を覚えた。幼い日々への祈りに似た連なる想い…おそらく全ての人々が共通に持ち、そして、それぞれの人の記憶の彼方にしまいこまれ、他人と分かち合うことのない自分だけの世界。もしかして現在の自分を決定的に方向づけていたかもしれない、もしかして新たな歩みのために決別を試みていたかもしれない、それ以上にいとおしく慰撫し続けているであろう、人それぞれの過去形。楽譜を読み進み詩を読み返してゆくうちに、共感よりも大きく覆いかぶさってくる不安な重圧に戸惑い、その意味を探ろうと模索せざるを得なくなった。

組曲の冒頭『花』、記憶の中の美しい桜の情景は、意外にも、節が進むごとに不安な血のイメージに塗り変えられてゆき、その動揺は運命づけられた「蒼ざめた」死への疾走まで一気につき進む。それは、言葉にできない深層の感覚「さんざしおん!」。作曲者はこの詩の描く世界を、私たちの心に強く浮かび上がらせ問いかける。第2曲『不眠』、半覚醒の闇に包まれて時計の音に導かれた妄想が眼の中を廻る。第3曲、少女時代の素直な『憧れ』を美しい色と光と共にいとおしく追想する(私達早春の会メンバーは、ここに描かれている様々な物達を共感を持って実際に思い出せる最後の世代かもしれない)。第4曲、『熱』を出して脈動が頭痛に響く長い一人の時間。煙のように消えてしまいそうに、あまいにさえ思える命…。第5曲、私の日々は鳴っていた! 蟹気楼のように浮かんで見える幼い日の情景。『喪失』してしまった最も大切なものは何なのか? 定在波のように心の底に揺れ続けているものは何か? 曲を閉じてもお音楽は問い続ける…。

吉原幸子(1932~2002)は、東大仏文科を卒業し演劇の舞台を踏み、20代後半に『幼年連禱I~IV』約50編を第1詩集として発表した。必ずしも幸福とは言えなかった自分の幼年を、明暗・音・匂いといった感覚記憶として数年がかりで再体験し、詩を書くことによって別れを告げ、新たな出発をしようとしたのだろうか。

作曲者・新実徳英(1947~)は東大工学部卒を経て芸大作曲家を卒業、初期の合唱組曲として32才で『幼年連禱』を発表した。私達合唱メンバーは、1年以上に亘りこの曲を何度も繰り返し練習し、その度毎に詩の言葉を繰り返し歌い出し、考え噛みしめ模索し続けてきた。私をはじめ、たぶん誰ひとり、この詩について明確な把握はできていないと思うのだ。しかしこの先、人生の様々な折に、今日歌った言葉を音楽と共に思い返し、胸の中で噛みしめていくことになるだろう。新実氏の作曲が、吉原氏の『幼年連禱』の謎かけの旅に私達を連れ出してしまった。

(玉置清明)

混声合唱組曲『21世紀のヒーロー』(1994年作品)

安藤由布樹 作曲

21世紀の到来を目前にした1994年、21世紀にどんなメッセージを残そうかと、品川区民の混声合唱団の人たちが、さまざまな詩を自由に書き綴り、それをもとにこの合唱組曲が生まれました。「ヒーロー」というのは特別な人を指すのではなく、「私たち皆が21世紀のヒーローになろう」という思いがこめられています。そのために何か立派なことをしようというのではなく、一日一日を悔いなく精一杯生きよう、日々の素朴な営みの中に、私たち自身をヒーローと呼ぶにふさわしい答えを見いだすことができると、という、全ての人々に贈る激励のメッセージを謳いあげるのである。

昨年の大震災のあと、日本中の人々が悲しみに耐える中で、今だからこそ歌いたい歌として、この「ヒーロー」は多くの人々に歌われました。1994年7月、大井町きゅりあんにて初演、1999年に改訂。2001年に大久保混声合唱団によりCD発売。2002年に国際芸術連盟より楽譜出版。近年はオーケストラ伴奏版もしばしば演奏されています。

三つの秦野民謡

玉置清明 編作曲

- I『秦野音頭』: 秦野市民なら耳に馴染んだ盆踊りの新民謡。秦野の山々の美しさと祭りのワクワク感をオリジナルとは全く違う味わいで歌います。
- II『麦打ち唄』: 丹沢山塊の麓の地域で江戸時代から歌い継がれてきた仕事唄。刈り取った麦を脱穀するため、秦野地域固有の長い回転棒「ぐるり棒」で打ちながら歌われた。本来は、バンバン打つ力の要る仕事だが、旋律の伸びやかさと美しさは伝承民謡の中でもピカイチだと思う。残念ながら伝承を歌い継ぐ人が途絶えてしまう(った?) 可能性がある曲です。春の柔らかい陽差しの中で流れる時間を味わってください。
- III『瓜生野盆踊り唄』: 秦野市内弘法山の麓に「瓜生野」という小さな古い村があり、そこの広場で毎年お盆に歌い踊っている盆踊りです約300年に亘って歌い継がれて秦野市無形文化財に指定されていますが、秦野でも瓜生野の人以外は全く知られていません。独特可憐な明るい旋律を生かしたリズムと和声をお楽しみください。

玉置 清明

1952年新宿区生まれ。小学校2年から中学3年までNHK児童劇団に在団、テレビラジオに出演し表現を学ぶ。エレキバンド、フォークソングを経て、都立目黒高校音楽部でクラシカルな音楽表現に目覚める。東京芸術大学声楽科で作曲理論・指揮法を学ぶ。神奈川県公立中学高校の音楽科教諭在職中、吹奏楽・オーケストラ・弦楽・合唱・独唱・JAZZ・フォルクローレ等、様々な演奏・指導経験を積む。特にオーケストラでの全弦楽器パートの演奏及び指導で大きな力を発揮し、神奈川県教育センターオーケストラ講座講師・県高校合同オーケストラ指揮者・県教材コンクール特別賞(弦楽指導)等。また、吹奏楽部・合唱部指導でも多数受賞。作曲・編曲も多数。また、美術制作でもスケールの大きい鉛筆絵画により、熊谷守一大賞展・アートアカデミージャパン・神奈川県展・秦野市展・厚展等で出品作のほとんどが入選、上位入賞。毎年個展を開催。早春の会合唱団指揮者。秦野市民交響楽団指揮者、奏者。秦野美術協会会員。



安藤 由布樹

都立駒場高校在学中に織田久男先生の教えを受け、それが以後の自身の音楽の源流となっている。東京芸術大学作曲科卒業。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門第一位受賞。2012年度国際芸術連盟作曲賞受賞。日本作曲家協議会会員、日本合唱指揮者協会会員、国際芸術連盟会員、日本ポーランド友好協会日本支部長、日本リトアニア友好協会理事。オペラ、オペレッタ、ミュージカル、バレエ、合唱、演劇等の作詞作曲家、指揮者、演奏家、演出家として国内外に広く活動の場を持つ。作曲作品は、独唱曲、合唱曲、器楽曲、室内楽曲、管弦楽曲、オペラ、オペレッタ、バレエ、ミュージカル、劇音楽など多岐に渡り、楽譜・CDなど出版多数。2008年に、織田久男先生にもっと学びたいと切望し早春の会合唱団に入団。



仲谷 智子

武蔵野音楽大学ピアノ科卒、久富綾子、澤田紀子に師事。ピアノ教室主宰。早春の会合唱団創団時より伴奏を務める。市民劇でのピアノ演奏、中高年の方向けの歌の会の企画、伴奏など、在住の船橋市での音楽活動を続けている。

早春の会合唱団プロフィール

- 1993年 3月 東京都立目黒高等学校の旧音楽部(顧問:織田久男先生)のOBを母体として発足 指揮者:松田匡史氏 伴奏者:仲谷智子
- 10月 第39回目黒区合唱祭に参加(目黒公会堂)以降毎年参加
- 1994年 11月 第36回都民合唱コンクール(東京文化会館)小ホール部門第一位
- 1996年 10月 第38回都民合唱コンクール(東京文化会館)小ホール部門第一位
- 1999年 8月 指揮者:井上実氏
- 2000年 6月 第1回演奏会(こまばエミナース)
- 2001年 2月 指揮者:玉置清明氏
- 2002年 7月 第2回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2004年 9月 第3回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2005年 1月 新実徳英先生作品展に参加(秦野市文化会館大ホール)
- 2006年 9月 第4回演奏会(東京文化会館小ホール)
- 2007年 3月 高田三郎先生作品展に参加(秦野市文化会館大ホール)
- 2008年 4月 指揮者:浦尾画三氏
- 2009年 6月 指揮者:安藤由布樹氏
- 2010年 4月 指揮者:玉置清明氏(以降指揮者は玉置氏と安藤氏で現在に至る)
- 2010年 7月 第66回東京都合唱祭に参加(五反田ゆうぽーと)
- 2012年 3月 木下牧子先生作品展に参加(秦野市文化会館大ホール)
- 5月 第5回演奏会(東京オペラシティリサイタルホール)

今年の演奏予定

- 5月 第58回目黒区合唱祭(めぐろパーシモンホール)
- 7月 第67回東京都合唱祭(新宿文化センター)
- 10月 第19回めぐろ童謡コンサート(めぐろパーシモンホール)